

～いのちと環境を守る えひめミーティング～

ツイキャス
ライブ配信あり
(ウラ面を)

「今なら止められる！

山鳥坂ダム建設と野村ダム改造」

～ Ehime Meeting for saving our livings & environments ～

"It is now that we can stop both the construction of Yamatosaka Dam & the reform of Nomura Dam."

いつ = 2022年7月16日(土)

13:30 ~ 16:30 (13:00 開場)

どこで = 大洲市総合福祉センター 4F 多目的ホール
大洲市東大洲 270-1

《プログラム》

- 13:30 ~ 13:40 「肱川水系河川整備計画」をめぐる基調報告
- 13:40 ~ 15:00 ゲストスピーカーによる問題提起
- 15:00 ~ 15:30 ♪ 地元ミュージシャンによる音楽の時間♪
- 15:40 ~ 16:20 シンポジウム+えひめミーティング(質疑応答)
- 16:20 ~ 16:30 大会宣言の採択

《ゲストスピーカー》

・ 嘉田由紀子さん (かた ゆきこ: 元滋賀県知事・現参議院議員)



ダムはなくても
治水はできます。

・ 小松正幸さん (こまつ まさゆき: 元愛媛大学学長 / 地学)



山鳥坂ダムはムダ!

・ 中島熙八郎さん (なかじま きはちろう: 熊本県立大学名誉教授 / 農村計画学)

・ 除本理史さん (よけもと まさふみ: 大阪公立大学教授 / 環境経済学)

私たちの税金が公共事業に。
ダムって本当に必要なの？

山鳥坂ダム建設費が、850 億から
1,320 億 (約1.5倍)になるのはなぜ？

野村ダムに穴を開けるらしい
けど、大丈夫なのかな。

最近よく聞く「流域治水」
って、どういうこと？

これから工事が始まる山鳥坂ダムは、
地盤が危なくて上流に移転するらしいよ。

最初にも地盤を調べたよね。
あれは何だったの？

ダムのない小田川の水

野村ダムと鹿野川ダムのある
肱川本流の水

写真: 肱川 (本流) と小田川 (支流) の合流点では、ダム放流のあと、
このような状態が見られます。

主催: いのちと環境を考える市民会議えひめ お問い合わせ先 → 090-1174-5243 (有友) 090-1578-9769 (白石)

協力: 愛媛ダイビングセンター、グリーンコンシューマーおおす、全国山林労働組合愛媛県本部、トキワバイク*プロジェクト、7・7 水害を考える会、野村の未来を守る会、よくよく会 (愛媛4区を良くする市民連合)
子守唄の里・五木を育む清流川辺川を守る県民の会、坂本町被災者・支援者の会、美しい球磨川を守る市民の会、瀬戸石ダムを撤去する会、立野ダムによらない自然と生活を守る会
清流球磨川・川辺川を未来に手渡す流域都市市民の会、7・4 球磨川流域豪雨被災者・賛同者の会、石木川まもり隊、まなぶ農園、長良川市民学習会 代表 粕谷志郎 (順不同)

ウラ面もご覧ください →→→

「今なら止められる！」

～いのちと環境を守る えひめミーティング～

山鳥坂ダム建設と野村ダム改造」開催趣旨

さまざまな社会・環境問題のなかでも、近年の気候変動による降雨災害は、河川の治水を喫緊の課題としています。ことに、2018年7月の肱川流域では、豪雨を受けた2つのダムが緊急放流を行い、8名の命が失われました。それは、ダムによる「点としての治水」が機能しないことを明らかにしたものであります。

それに対してわたしたちは、河川の治水は源流の山林から河口の海岸に至るまで、その流域全体を一体のものとしてとらえ、流域のさまざまな自然環境・社会環境を破壊することなく行われる「流域治水*」を基本としなければならないと考えます。それは、河川を力ずくで「支配・管理」しようという治水のあり方から、人びとと河川とが「共存」できる治水への転換です。このような「流域治水」への転換にあたっては、流域全体に暮らす人びとの意見が尊重され、本来の地方自治が機能することが、なによりも重要になります。

そこで、今回の「いのちと環境を守る えひめミーティング」では、ダムからの撤退を含む方策をさまざまな専門家とともに議論し、本当の流域治水の実現に向けて、地方自治体や国交省に働きかけていきたいと考えています。

*わたしたちのいう「流域治水」は、国土交通省が最近になって唱え始めた「ダムを中心とする流域治水」とは根本的に異なります。

ツイキャス
配信情報

当日、中継を見るには →→ <https://twitcasting.tv/c:liveshijikawa> →→→→→→→→→→
後日、録画を見るには →→ <https://twitcasting.tv/c:liveshijikawa/show/>



いのちと環境を考える市民会議えひめ —20年後を見すえた未来のために—

いま、地球温暖化、マイクロプラスチック、過剰なエネルギー消費、核廃棄物など、さまざまな社会・環境問題が噴出していて、このまま放置すると、わたしたちの暮らし基盤が破壊されると警告されています。しかし、そもそも地球温暖化は、「未来より現在の暮らし」という過去の施策の積み重ねが招いた問題といえます。いまここでの「より早く、より便利に、より快適に……」という施策が、解決がたいへん困難な地球温暖化をもたらしました。経済成長こそ絶対と信じ、それ以外の施策が一切見えなくなっていたのです。20年後を見すえて、未来の暮らしを生み出すためには、まず、このような強迫観念を払拭しなければなりません。わたしたちは、このような強迫観念を乗り越え、20年後の未来を見すえた施策を実現しようとする市民の会です。

共同代表：浅野修一（宇和島市議 / 原発いらんぜ宇和島市民の会） 有友正本（7・7水害を考える会）
村田武（九州大学名誉教授 / NPO 法人自然エネルギー愛媛） 和氣数男（西予市議 / 野村の未来を守る会）